様式2－1

令和 8年 10月 5日

令和8年度　評価計画及び自己評価

（ 計画・中間・最終 ）

豊浜中学校区　校番34　学校名　呉市立豊小学校

a 学校教育目標	貫 自ら考え主体的に学び表現する児童生徒の育成 ～ふるさとを愛し，仲間と共に未来を拓く～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉（学校の使命） 社会で人生を豊かに生きるための力を付け，未来を切り拓くことができる児童の育成 〈ビジョン〉（将来の学校像） 夢いっぱい　感動いっぱい　笑顔いっぱい　の　わくわく感あふれる学校

c 中期経営目標を踏まえた現状（進捗状況）と今年度の重点	本中学校区では，昨年度，特別支援教育の視点を取り入れた学習指導の工夫を行うことで，児童生徒の困り感をなくし，全ての児童生徒が「分かる・できる」ための授業づくりを進めてきた。今年度も引き続き，一人一人が主体的に深く学び，自分の思いを表現できるような小規模校，複式学級ならではの授業づくりを進めていく。 学力向上・授業改善に加え，「防災教育の深化」「自己肯定感の向上」「郷土を愛する心の育成」「いじめ防止等の対策」「働き方改革や業務改善の一層の推進」を今年度の重点とする。

育成を目指す資質・能力	貫 「生きてはたらく知識・技能」　「課題を解決し，発信する力」　「主体的に学び，協働する力」

評価計画（中期経営目標を設定してから 1 2 ・ 3 年目）						自己評価					
						上半期			下半期		
重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（今年度）経営目標	f 目標達成のための方策（こんなことをして達成します）	g 指標（効果を見とる目安）	h 目標値	i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
*** 確かな学力	貫 「主体的・対話的に深く学び，思いを分かりやすく表現できる」児童生徒を育成する。	基礎・基本の学力を意欲的に身に付けようとする児童の育成	貫 家庭学習時間（学年×10＋10）分の徹底を図る。 予習・復習を行うよう指導する。	国語科の単元末テストの正答率 （現状値82%）	80	80 92	100 114	A A			
			貫 キュビナを活用した個別最適な学び ICT 授業の中で必ず学習内容等を確かめる場面を設ける。 聴く たしかめる	算数科の単元末テストの正答率 （現状値79%）	80	87 71	109 89	A B			
		主体的に学び，協働して学びを深めることができる児童の育成	考えを再構築する発問の工夫をする。 ①あっているか？（理由は？） ②仲間分けできるか？一番よいものはどれか？（理由は？）等 かかわる ICT 全ての子どもが「分かる・できる」ための工夫をする	貫 児童評価 （授業がよく分かると答える児童の割合） （現状値89%）	90	93	103	A			
		自分の思いを表現することができる児童の育成	貫 授業では発表を促し，授業の終わりには必ず振り返りを言わせたり，書いたりさせる。 ふりかえる 貫 1分間スピーチを行う。（好きなこと，自分のよいところ，将来の夢　等）	貫 児童評価 （授業では，自らの考えや理由を相手に分かりやすく伝わるようにしていると答える児童の割合） （現状値86%）	85	82	96	B			
** 豊かな心・健やかな体	貫 粘り強く挑戦し，夢や誇りをもち，郷土を愛する心を育てる。	郷土を愛する心を育てる。	地域に関わる探究的な学習を実施する。 ICT	児童評価 （自分の住んでいる地域（呉）のことが好きと答える児童の割合） （現状値81%）	90	85	94	B			
		自己肯定感を高める。	認めて伸ばす言葉かけをする。 貫 行事等の目標を明確にし，達成することによって自己肯定感を高める。（小中合同行事を含む）	貫 児童評価 （自分には，よいところがあると答える児童の割合） （現状値77%） 援興	85	71	84.0	B			
		自分の命は自分で守ろうとする児童の育成	貫 防災教室・避難訓練等で各種災害を自分ごととして捉えることができるよう指導する。	貫 児童評価 （災害時に避難する場所や避難の仕方について理解している児童の割合） （現状値100%） 援興	100	100	100	A			
		体力を身に付けようとする児童の育成	体育等に目標をもって取り組ませる。	児童評価 （体育等に目標をもって取り組むことができたと答える児童の割合） （現状値89%）	95	86	91	B			
* 信頼される学校	貫 地域・保護者連携，業務改善	保護者の信頼を得る。	学校の取組や児童のがんばり等の積極的な発信	保護者評価 （児童が学校へ行くのを楽しみにしていると回答する保護者の割合） （現状値100%）	95	100	105	A			
		貫 いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくり	組織的な生徒指導体制と教育相談体制の確立	全ての児童を対象にした個別面談の実施（月1回のふれあい相談日）	100	100	100	A			
		児童と向き合う時間の確保	貫 ICTの活用による業務の効率化 ICT 定時退校日の徹底	貫 児童と向き合う時間が確保されていると答える教職員 （現状値89%）	100	100	100	A			
		「働きがい」と「働きやすさ」の両立	会議や研修，学校行事の見直しや精選	「心理的安全性が確保されている」と感じている教職員 「日々の業務の中で充実感を得られている」と感じている教職員	100 100	100 100	100 100	A A			

【k:評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

様式３－１

令和8年10月5日

令和8年度　結果の分析及び今後の改善策

（中間・最終）

豊浜中学校区　校番34　学校名　呉市立豊小学校

重点	d 中期（3年間）経営目標	e 短期（1年間）経営目標	l 結果の分析（結果と課題をこう考えます）	m 今後の改善策（案）（こう改善します（案））
★★★ 確かな学力	貫 「主体的・対話的に深く学び，思いを分かりやすく表現できる」児童生徒を育成する。	貫 基礎・基本の学力を意欲的に身に付けようとする児童の育成	【国語科（知識・技能）80（思考・判断・表現）92】 【算数科（知識・技能）87（思考・判断・表現）71】 ・国語科（知識・技能）の中では，漢字の定着に課題がある。 ・算数科の（思考・判断・表現）に課題がある。問題文を正しく読み取ることや問いに正対した答えを求めるために深く考えることが難しい。	・ぐんぐんタイム（帯タイム）で漢字の小テストを行うことを通して，漢字の定着を図る。 ・漢字の定着のために，タブレットでの学習だけでなく，「書く」活動を大切にする。「止め」，「はね」，「はらい」に気を付けて丁寧に文字を書く意識を高めるため，ノート表彰を行い，表彰された児童の漢字ノートの掲示をして意欲をもたせる。 ・国語科の授業では，必ず音読の時間を設ける。 ・算数科の授業では，基礎・基本の確実な定着のためにできるだけたくさんの問題を解かせる。 ・テスト等は，直しまでやり切らせる。 ・説明することによってより理解が深まる。今後も授業の中でペアや全体で自分の意見や考えを説明する場を設定する。
		主体的に学び，協働して学びを深めることができる児童の育成	【肯定的回答93%】 ・各教科の授業では，少人数の強みを生かして，全員に発表の場を設けることができる状況にある。 ・ホワイトボードやロイロノートの共有ノートを活用するなどして，考えを説明する場を設けている。 ・児童の個々の実態や課題に応じた個別の指導，支援を行っている。	・教師が，個への見とりをもとに，教材研究や授業準備を行う。 ・学級経営，学級集団づくりの中で，共感的な人間関係を築くことを通して，授業内でも主体的で協働的な学びにつながるようにする。 ・次の学習につながりをもたせるため，必ず振り返りを行う。「振り返りの例」をもとに振り返りの質を向上させる。 ・児童の個々の実態や課題に応じた個別の指導，支援をさらに充実させる。
		貫 自分の思いを表現することができる児童の育成	【肯定的回答82%】 ・友達の発表を肯定的に受け止め，評価する児童が多い。 ・失敗や間違いを恐れて，自分の思いを表現しづらいと感じている児童がいる。	・毎週月曜日の「ことばタイム」では，ペアトークやグループトークを行い，双方向での話合い活動になるよう工夫する。この活動を通して，表現すること，思いや考えを伝え合うことの楽しさや面白さを実感させる。 ・引き続き，毎時間，授業の振り返りを行う。 ・「認める指導」「支える指導」を心がけ，一人一人の自己存在感を高める。 ・ふれあい相談や，日々の活動を通して，児童同士，児童と教師との信頼関係を構築し，思いをもち，伝えることのハードルを下げる。
★★ 豊かな心・健やかな体	貫 粘り強く挑戦し，夢や誇りをもち，郷土を愛する心を育てる。	郷土を愛する心を育てる。	【肯定的回答85%】 ・歴史的な文化遺産，特産物等，学習に活用できる地域素材に恵まれているが，上半期には，地域の「人・もの・こと」とのつながりを意識した教育活動が十分でなかった。	・低学年においては町探検を行ったり，高学年においては総合的な学習の時間や社会科等で地域の方と交流する学習を行ったりすることを通して，自分たちが住んでいる地域についてさらに知り，新たな興味・関心や愛着をもつことができるようにする。
		貫 自己肯定感を高める。	【肯定的回答71%】 ・全学年で帰りの会にクラスのよいところ見つけを行っている。 ・認められたり，褒められたりしても自己肯定感につながりにくい児童がいる。 ・学習への苦手意識がある児童，学習意欲が低下している児童は，自己肯定感に課題がある。学習場面で「わかった」「できた」と感じさせることで，自己肯定感の向上につなげていく。	・自己肯定感を高めるために，基盤となる自己存在感や自己有用感を育てる取組として，よいところ見つけなどの活動を引き続き行う。 ・すべての児童が分かる授業づくりの取組を，全教職員間で共有し，実施する。 ・長期的な視点をもち，児童を認め，褒める指導を継続する。
		貫 自分の命は自分で守ろうとする児童の育成	【肯定的回答100%】 ・避難訓練や防災学習を通して，児童は緊急時の避難方法や避難場所を理解している。	・想定を変えた避難訓練を実施することで，様々な災害に対応できるようにしていく。 ・防災・減災に関する学習を各教科等に位置付け，防災教育を意図的，計画的に進める。 ・防災参観日を継続して行い，保護者・地域の方とともに取組を深化させる。
		体力を身に付けようとする児童の育成	【肯定的回答86%】 ・運動会や水泳指導では，頑張りカード等を使用して目標をもって取り組むことができた。	・縄跳び等の技に挑戦する単元では，頑張りカードに目標やめあてを書かせ，意欲的に取り組ませる。 ・「くれチャレンジマッチ」に参加することで，他校と楽しく競い合いながら，基本的な動きを身に付けさせる。 ・全ての児童が，運動が楽しいと思うように体育科の授業改善を推進する。
★ 信頼される学校	貫 地域・保護者連携，業務改善	保護者の信頼を得る。	【肯定的回答100%】 ・肯定的評価100%であることから，「児童は学校へ行くことを楽しみにしている」と保護者からの評価を得ている。	・児童，保護者，地域の信頼を損なうことのないよう，服務規律の確保に係る年間研修計画の確実な実施を通して不祥事根絶のための取組の徹底を図る。 ・児童の日々の生活の様子や学習の状況，心身の状態を把握し，気になる事案については組織的に対応するとともに，保護者と連携し協力を得る。
		貫 いじめや暴力行為等を許さない学校環境づくり	【実施率100%】 ・ふれあい相談で得た児童の情報を共有したり指導支援に生かしたりするなど，取組の深化が求められている。 ・児童の実態把握に努め，全ての教職員で情報の共有を行いつつ，一貫した取組を進める必要がある。	・職員研修等を通して，ふれあい相談の取組の目的や意義について教職員の周知徹底を図る。 ・月中予定を教職員相互確認したり，声をかけ合ったりすることを通して，ふれあい相談を確実に実施し，教育相談活動を全校的に展開する。
		貫 児童と向き合う時間の確保	【肯定的回答100%】 ・教職員は「児童と向き合う時間が確保されている」と肯定的に自己評価している。 ・上記項目において，「とてもできている」と回答した教職員の割合は66%であった。「とてもできている」と回答する教職員の割合を増やす取組が求められる。	・教職員の意見を取り入れたり，ICTを積極的に取り入れて効率化を図ったりして，業務改善を推進する。また，行事に係る指導時数を見直し，削減するなどして，教職員が児童と向き合う時間の確保に努める。
		「働きがい」と「働きやすさ」の両立	【心理的安全性100%】【充実感100%】 ・教職員は「心理的安全性が確保されている」「日々の業務の中で充実感を得ている」と自己評価している。 ・上記項目において「とてもできている」と回答した教職員の割合は，心理的安全性の確保が80%，充実感を得ているが60%であった。「とてもできている」と回答する教職員の割合を増やす取組が求められる。	・支え合い協働する職場，相談しやすい雰囲気のある職場をつくり，教職員が安心して働くことのできる環境を整備する。 ・業務の分担を指示し，協力，協働をさらに推進する。また，その成果を肯定的に評価し，教職員の「働きがい」を促進し，質の高い教職員の育成に努める。

様式4

令和8年10月22日

令和8年度　学校関係者評価及び改善策

（ 中間 ・ 最終 ）

豊浜中学校区　34　呉市立豊小学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標，指標の設定の適切さ	A	・学校教育目標を達成するための，それぞれの目標は適切である。 ・中間目標を踏まえて，今年度の目標を設定しており，適切である。 ・評価項目が多過ぎず，今年度，学校として取組むべき重点目標が明確に設定されている。
目標達成のための方策の適切さ	A	・地域の方をゲストティーチャーとして招くなど，実際の教育活動に落とし込んで成果をあげている。 ・少人数の利点をいかして，いろいろと工夫した方策が示されており，良いと思う。 ・目標達成のための方策は具体的な取組が明確に示されているため，適切である。 ・児童の意欲を高めるよい方策に取り組んでいる。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	・結果について課題を的確に捉えているので，適切である。 ・目標値に近い評価値が示されており，評価できる。 ・課題の原因について深く掘り下げて分析している。
今後の改善策（案）の適切さ	A	・結果分析を受けて改善策を具体的に示している。 ・適切である。
その他		・タブレット端末を使って学習するメリットを感じる一方で，キュビナは乱れた文字を書いてもAIが予測して正答と評価するので心配もある。 ・書く習慣を身に付けられるような取組に，家庭も協力したいと思う。 ・基本的なことに目を向けてじっくりと指導してくださっていることを有難く思う。 ・自己肯定感を向上させるために，保護者も協力したいと思う。

※　評価は，A（とても適切），B（概ね適切），C（あまり適切でない），D（まったく適切でない），N（分からない）

学校関係者評価を受けての今後の改善策	・小規模校のよさをいかした，児童一人一人を大切にした教育を組織的に実践することを通して，児童が落ち着いて，主体的に学習を進めることができるようにする。 ・毎月1回「ふれあい相談」を実施し，児童の実態を把握するとともに，教職員間で情報を共有し，組織的に対応するなどして，児童の安心安全の確保に努める。 ・地域の人材や学習環境を積極的に取り入れた学習活動を充実させ，「地域とともに」よりよい教育活動を推進していく。 ・教職員が「働きがい」と「働きやすさ」をもって児童と向き合う時間を確保できるように，今後も業務改善を進める。